

関西菌類談話会会報

2018 年 2 月 No. 36



目 次

表紙： <i>Acervus epispartius</i> (和名なし)	1
初級講座 変形菌入門について	大久保泰和 . . 2
宿泊菌類観察会に参加して	山田瑠美 . . 4
第 26 回きのこと展	堀井雅人 . . 6
2017 年度スライド大会紹介	東勇太 . . 8
2017 年度活動の記録 No. 2	15
会報記事投稿のご案内など	編集委員会 . . 20

初級講座 変形菌入門について 大久保泰和

第 573 回例会 初級講座 変形菌入門

日時：2017 年 6 月 25 日(日)

場所：午前：長居公園

午後：大阪市立自然史博物館講堂

テーマ 「変形菌を調べよう」

ミニ観察会（午前）

講師：田中久美子氏（変形菌追っかけ隊）

井内由美氏（姫路自然観察の森）

講習会（午後）

講師：松本淳氏（福井総合植物園、
日本変形菌研究会事務局長）

今回は大阪自然史博物館友の会会員を中心とした企画、定刻になると「クジラ」の下に続々と 50 名を超える方々が集合。手始めにルーペの使用法を練習してから、植物園内で採集会が始まる。スタッフの手ほどきにより地上に積み重なった落ち葉を裏返すと、変形菌の痕跡や変形体が次々と発見された。

またバラ園の芝生では、シロツメクサに群生したハイイロフクロホコリの子実体を採集。実習室では実体顕微鏡により、採集品や乾燥標本の子実体を観察していささか興奮気味になる。



ミニ観察会の様子 1



ミニ観察会の様子 2



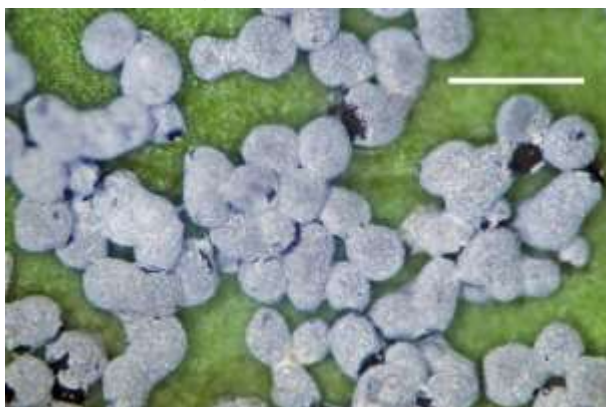
クジラの前に続々と集合



実体顕微鏡で観察



シロツメクサに発生したハイイロフクロホコリ



ハイイロフクロホコリ スケール 1mm

午後からは松本淳講師による変形菌の講座が開催され、いまだに動物か植物か決着の付かない変形菌の不思議な生態が紹介された。質問が相次ぎ、ますます得体の知れない変形菌の実体に驚きを新たにした。

その後実習室で、標本の顕微鏡観察が熱心に続けられた。参加された方々は、変形菌の不思議さと身近さの両方を体験されたことであろうと思われる。



講演会の後も顕微鏡観察が続く



熱演される松本淳講師 (撮影 佐久間大輔)



ナバホネホコリ スケール 1mm

(2017 年 7 月 29 日受付)

宿泊菌類観察会に参加して

第 576 回例会 宿泊菌類観察会

日時：2017 年 10 月 7 日（土）

～9 日（月・祝）

場所：広島県廿日市市吉和 もみのき森林公園
（ブナ・モミ林）

天候：曇りのち晴れ

クヴェーレ吉和の宿からバス 30 分で、もみのき森林公園に到着しました。標高 900m 前後の高原でモミ、ナラ、ブナの林が豊かに眼前に広がっていました。ここは、2013 年に日本菌学会の広島フォーレの観察会が行われた場所です。



もみのき森林公園

10 月 7 日の夜、スライド会で井本さんが、エリアごとに発生するキノコをいろいろ紹介してくださいました。特にキャンプ場周辺のシャカシメジ *Lyophyllum fumosum*、モミタケ *Catathelasma ventricosum*、オオワライタケ *Gymnopilus junonius* や分岐した先端部位が青色がかったホウキタケ属のキノコを是非見つけたいと思いました。

京都からのバスの車中にて橋本さんとお話をしながら、「カラキシメジ（アカマツ、カラマツ林下に発生）やキシメジ（アカマツ、コナラ、ミズナラ林）を見つけれたら、いいなあ」「どんなキノコと出会えるかなあ」とワクワクしました。「初め

山田瑠美

てのフィールドなので、クマやマダニだけは、お会いしたくない・・・」と警戒しながら、丸山さん、加瀬谷さん、鎌田さんと一緒に歩き始めました。

普段なら、見つけたキノコを片っ端からフォーレ（略奪の意？）していましたが、今回、*Russula* や *Mycena*、*Marasmius* はややスルー気味となりました。奈良でも、モミ属の樹下であれば見られる橙色の美しいアカモミタケ *Lactarius laeticolor* がお出迎えしてくれました。*Cortinarius* はあちらこちらに発生していても、種名にたどりつけない菌がゆさを感じながら、写真を撮っていました。



橙色の美しいアカモミタケ

場所を移動し始めた瞬間、コナラの樹の根元に、なんと初見のシャカシメジ！（でも自信なし）が大きく株立ちしているではありませんか。思わず「きゃあ、これなあに！」と叫ぶ私を、皆が「おお！」とまわりをとり囲みました。私はこのビキナーズブラックに狂喜乱舞でした。丸山さんに、「結構、根が深いから、気をつけて」と教えていただき、鎌田さんの特製割り箸でドキドキしながら、掘り出しました。その嬉しさは忘れられません。



見つけたシャカシメジ 「ヤッター」。

さて道中、至る所にキハツダケ *Lactarius tottoriensis*、モミ樹下には、ヒメサクラシメジ *Hygrophorus capreolarius* が見られました。後者は、観察会後の同定会にて、わかりやすい識別方法を伝授していただきました。因みにサクラシメジ *H. russula* はクモの巣膜がないのがヒメサクラシメジと同じだが、ブナ科の樹下に発生し、苦味がある。サクラシメジモドキ *H. purpurascens* は、クモの巣膜があり、苦みがないとのことでした。



キハツダケの群生



モミ樹下のヒメサクラシメジ

同定会では、会員による様々な解説をお聞きすることができて多くを学びました。今回、モミタケは、採取できませんでしたが、高原のキノコを楽しめたこと、夕食のお膳が素晴らしかったことも附記しておきます。ありがとうございました



マイタケを鮭で巻いたのが美味しかった。



シャカシメジでお汁ものを作りました。
香り、食感が優れてました。

(2017年10月15日受付)

第 26 回きのこ展

堀井 雅人

2017 年 10 月 28 日（土）から 29 日（日）、第 26 回きのこ展を京都府立植物園で開催しました。台風の影響で両日ともに悪天候であったにもかかわらず、来場者数は 2 日間で 1070 名となりました。

今回のきのこ展の目玉は「光るきのこ」ということで、株式会社岩出菌学研究所にご協力を頂き、栽培キットを使ったヤコウタケの生体展示が試みられました。しかしヤコウタケといえど、しっかりと発光が確認できるのは 1 日から 2 日間程度。きのこ展当日に良い状態で展示することができるのか、不安要素もありましたが、担当者の準備の甲斐あって、2 日ともきれいな生体のヤコウタケを会場に展示することができました。

暗幕で覆った段ボール箱にヤコウタケを入れ、箱の穴からのぞくという形で来場者にその発光を見てもらいましたが、きのこが光るということをご存じない方も多く、大いに好評でした。また、ヤコウタケや発光性のきのこを初めて見たという会員も多く、きのこの入った箱の前はいつもにぎわっていました。ヤコウタケの生体展示に加え、ツキヨタケやアミヒカリタケといった発光性きのこの写真パネルを貼ったスペースも設けられました。通常光下での姿と発光している姿を並べた写真が見事でした。



ヤコウタケ展示風景



光るきのこのパネル

植物園教室は 28 日と 29 日の 2 度開催されました。今回は展示と連動して、大場由美子さんに「光るきのこ」と題してお話を頂きました。例年は 1 回のみの講演ですが、28 日は 50 人、29 日は 42 人が来場され、両日ともに盛況となりました。



生きのこ写真のコーナー

恒例の生きのこ展示は、会員が事前に集めたもの、遠方の関係者の方々から送っていただいたもの、28 日の吉田山観察会で採集されたもの、来場者の方が持ち込まれたものなど、充実した顔ぶれとなりました。雨が続けてフィールドのコンディションが良くないにもかかわらず、きのこの同定コーナーには今回も多くきのこが持ち込まれ、スネゲツルタケ（池田仮称）のように会員も驚くようなきのこも顔を出しました。また、台風で折

れた枝から見つかったという「暖皮」も持ち込まれました。硬質菌の菌糸が材の年輪に沿って絡まりながら広がって分厚いフェルト状になったもので、古くには布のように細工された例もあるそうです。大変珍しいものとのことで、皆、なめし革のような感触を確かめていました。



スネグツルタケ (池田仮称)

毒きのこコーナーでは、パネルと生きのこを展示しました。横山和正先生に作成していただいた「関西の毒きのこ」のパンフレットを今年も配布し、きのこ中毒への注意喚起をしました。

顕微鏡コーナーでは、実際のプレパラートを顕微鏡で観察することができます。プレパラートは随時更新され、持ち込まれたきのこで特徴的なものが展示されることもありました。小寺祐三さん撮影の顕微鏡写真も見ごたえのあるコーナーです。

冬虫夏草コーナーも、梶山直樹・昭子さんらのご協力により例年通り開設されました。標本、写真共に充実したコーナーで、来場者の方とディープな冬虫夏草トークが繰り広げられる一幕もあったようです。

今回は展示スペースの都合で、スタンプコーナーときのこに触れるコーナーが同じ机で開設されました。スタンプコーナーではきのこをかたどったいろいろなスタンプが用意され、子供たちが紙に押して色鉛筆で塗り絵を楽しんでいました。きのこに触れるコーナーではキクラゲや硬質菌が並べられました。どちらも親子連れにとっても人気の

コーナーです。

きのこ染めやきのこの絵画、きのこを使った作品や小物の展示も充実していました。なかには、本から生やしたきのこ、といったものもありました。

29日の午後に開催された植物園内の観察会は、土砂降りの雨にもかかわらず60名もの方が参加されました。

物販は大阪自然史博物館と佐野書店さんが出店されました。談話会からも、故上田俊穂先生がデザインされた手ぬぐいとバンダナを販売しました。



片付け後の集合写真 (撮影 加瀬谷泰介)

私は今回、実行委員の見習いのような形できのこ展に関わることになりました。都合が合わず会合にはほとんど参加できなかったのですが、きのこ展が多くの方のご協力により開催できていることを改めて感じました。きのこ展が次の年、また次の年へと続いていくよう、今後もお力になれば、と考えております。

(2018年1月13日受付)

2017 年度 スライド大会紹介

東 勇太

第 580 回例会 初級講座 スライド大会

日時：2017 年 12 月 3 日(日)

場所：大阪市立自然史博物館講堂

昨年までの大手前栄養学院専門学校から会場を変え、大阪市立自然史博物館講堂で関西菌類談話会のスライド大会が行われました。私も毎年の恒例行事として、中国山地まっただ中の僻地からはるばる参加しました。

今回からは会場のみならず趣向も変え、内輪向けではなく初心者に向けた基礎的な内容の発表も目立つ大会となりました。例年、参加者はほぼ会員のみですが、集計によると参加者が 96 名でそのうち約 4 割近くが非会員だったとお聞きしました。

発表者は 14 名の方で、本来であれば、その発表を全て紹介したいところですが、紙面（と私の時間的な）の都合により、私の発表のみを紹介したいと思います。



スライド会の会場風景

今回は発表者不足を予想し、20 分程度を想定した分量で作成していたのですが、限られた 15 分間に収めるように調整したため、割愛した内容も少なくありません。そこで、本記事ではその全貌を余すことなく紹介したいと思います。

題名は「冬虫夏草マラソン 2017」です。

毎年恒例となっている 100 km マラソンですが、今年は島根県奥出雲町で開催された「奥出雲おろち 100 km 遠足（とおあし）」に参戦しました。



写真は 62 km 地点あたりの吊り橋で撮影しました。深い渓谷の上にかかる吊り橋で、満開の桜が渓谷を彩りまさに絶景でした。



今年は、北は北海道から南は沖縄まで国内ばかりではありますが長距離移動をした年でした。主な行き先は沖縄県の西表島、北海道の屈斜路湖・摩周湖、山形県小国町の 3 つです。そして、実はどこでも漏れなくトラブルに見舞われてしまったのです…。

・ 沖縄県西表島

まずは沖縄県西表島です。写真は有名な観光地のカンピレーの滝です。西表島はレッドデータブックの冬虫夏草の調査で西表を良く知る冬虫夏草の会のメンバーと共に 5 月末から 6 月初旬に 1 週間程度滞在しました。目の前にサンゴ礁の広がる綺麗な海が広がっているというのに我々調査チームはずっと森の中を這いずり回って泥だらけ、蚊

やヒルに噛まれ放題で帰ってから1週間ほどは痒みに悩まされたほどです。

沖縄県・西表島



レッドデータブックの調査5/31~6/5

次からは西表島で見られた冬虫夏草を紹介したいと思います。

イリオモテセミタケ



まずはイリオモテセミタケ、今回の調査のメインです。セミの幼虫から発生し、バラ色の子実体が美しい冬虫夏草です。今回は多く発見され、西表島の自然が保たれていることが分かりました。西表島の土は粘り気が強く、掘ろうとすると道具や宿主に土がまとわりついて綺麗に宿主を出すのが困難な状況でしたが、写真の個体は奇跡的に宿主にほぼ泥が付いていない状態で撮影することが出来ました。

イリオモテクマゼミタケ



イリオモテクマゼミタケは、地上に転がったセ

ミの成虫から何本も子実体が発生します。セミの成虫から発生する冬虫夏草は少なく珍しい存在です。今回はこれまでの調査に比べて奇跡的に多く見つかったそうです。私は成熟したものが1個体だけですが、調査に同行したグッチョ先生こと盛口先生は多くの個体を見つけていました。本種は未記載種ですが、タイの冬虫夏草図鑑に良く似た種が載っているらしいですが、佐野書店では（予告があったものの）まだ取り扱っていないようです（早く入荷して欲しいものです）。

ヤエヤマコメツキムシタケ



個体数は最も多く、森内のどの場所でも見られた。

このヤエヤマコメツキムシタケは、コメツキムシの幼虫から発生します。本種は数cmほどの大きさですが今回の調査で最も多くの個体が見つかりました。他の種が見つからない場所でも、これだけは見つかるほどです。名はヤエヤマですが、奄美大島まで分布しています。

こうして、西表島では多くの成果が上がりましたが、調査最終日に長年使ってきたデジカメをジャングルの中で無くしてしまい、追い打ちをかけるように最終日には猛烈な腹痛と高熱でダウンしてしまいました。空港から車を自分で運転して這う這うの体で家にたどり着きましたが、熱を測ると38.9℃、よく一人で帰れたものです…。

・マラソン途中経過 1

100kmマラソンですが、滑り出しは順調だったものの10km過ぎから雷雨となりました…。峠は残雪が寒々しく、温度計の指し示す表示は11℃。用意していたレインコートを雨が降る前に捨ててしまったので、生身で2時間以上雨を受け続ける羽目に陥ったため鼻水が止まりません。そんな体の芯から冷え切った中、目に入る温かい蕎麦の看板…。

しかし、蕎麦アレルギーの私は食べることが出来ません…完走がピンチです…。

突然の雷雨……。残雪。気温11℃。雨具なし。



温かい蕎麦が出てきたが…

・北海道道東（屈斜路湖・摩周湖周辺）

9月には遠方へ赴任した同期の友人に会いに北海道まで行きました。折角の遠征ですから、観光するだけではもったいない！そこで、北海道の雄大な森の中でキノコ狩りをすることにしました。キノコ狩りの前日には準備運動がてら網走でフルマラソンを走りました。

北海道・道東（摩周湖・屈斜路湖）



きのこ狩りの前日にフルマラソンで準備運動

屈斜路湖畔できのこ採集



きのこは採れたが、普通種ばかり。

マラソンの翌日はお待たかねのキノコです。マラソンは高々フルなので、筋肉痛はありません。写真は屈斜路湖です。

友人の管轄区域である摩周湖や屈斜路湖周辺を探しました。キノコはそこそこ見つかるものの、特筆すべき北海道特有のキノコは見当たりません。

ツバヒラタケ



ツバの名残

北海道らしい唯一のキノコがこのツバヒラタケです。食用キノコのエリンギに近い種で姿形も良く似ています。また、名前にある通り柄につばの名残が残っているのが見えます。皆様に怒られるかもしれませんが、採取した個体は食味試験に回したため標本は残っていません。試験の結果、味

はエリンギそっくりでしたが、やや筋張って固い食感でした。

北海道からの帰り、またトラブルが発生しました。網走に向かう電車が人身事故…。幸い事故の瞬間は目撃しませんでした。45分程度足止めされました。フライトの時間にはかなり余裕を持って行動していたので乗り遅れることはありませんでしたがとんだ災難でした…。

・マラソン途中経過 2

雨は36kmを過ぎたあたりで止み、やがて太陽が顔を出してくれました。ずぶ濡れだった服は走りながら乾いていき、春の日差しの中満開の桜が彩る奥出雲の景色を堪能しながら走りました。



雨が止み、復活！

・山形県小国町

最後は山形県小国町です。冬虫夏草の会の総会に参加するため、広島からはるばる出かけました。私は同行者の車に乗っていただけでしたが、12時間以上の道のりでした。

写真は、調査地に行く道中で通った「日本一危険な吊り橋」です。幅が足一つ分しかありません。高所恐怖症なので、辛いものがありました…。

山形県小国町



山形では、いくつか珍しい冬虫夏草が見つかりました。まずは、写真左上のアリの成虫から発生

するツブタケ型の冬虫夏草でアリヤドリツブタケ。これが 1 番珍しいと思われます。次に、左下の(セミに近い仲間の) ヨコバイから発生するヨコバイタケ、最後は、右の朽木の中のアリから発生するアリヤドリタンボタケです。



色々な冬虫夏草



ただ、先頭を進んでいたはずの私は特に目ぼしい収穫はありませんでした。珍しい種を見つけた方々はいずれも駐車場の周辺で当たったようです。どうやら幸せは駐車場の近くにあるようです。

山形からの帰り道、同乗していた車に謎のエラーメッセージが表示され足止めを余儀なくされました。幸い走行には支障がなかったようなので、無事にそのまま帰ることが出来ましたが...

・地元(広島県庄原市)や近隣のキノコ

今年見つけた地元の庄原市やその周辺のキノコを紹介します。地元のキノコはしばしば仕事に見つけているので、仕事をさぼっているのではないかと疑われますが、この写真は境界標(けいかいひょう)と言って国有林と民有林の境の目印です。時にはこれを探し、普通の人が行かないような道なき森の中をひたすら歩いています。ちゃんと仕事は頑張っているのです。

地元(広島県庄原市)や近隣のきのこ



ちゃんと、仕事も頑張っています...

ハチタケ

岡山きこの研究会の合宿で他の参加者の方が見つけた物です。ハチタケ自体は普通種ですが、宿主が超大型のオオスズメバチの女王蜂でこれほど巨大な個体は初めて見ました(標本写真右側の普通サイズのハチタケと比べてみてください)。匍匐前進するまでもなく、10m手前からでも光り輝いて見えたほどです。



サビイロクビオレタケ

樹皮の下に潜むキアブの幼虫に寄生する冬虫夏草です。この柄の途中に結実部が形成されるこの形状はクビオレ型と言いますが、私の好きな形状です。

サビイロクビオレタケ



キアブの幼虫に寄生

シロネハナヤスリタケ

これは別の本命の種を探しに山に入って 30 秒で見つけました。普通種のハナヤスリタケと良く似ていますが、地下部のツチダンゴとつながる部分がハナヤスリタケでは黄色～朱色なのに対して本種は白色なのが特徴です。胞子も全然違っており、寄生するツチダンゴの種類も違うようです。なお、その日、何時間匍匐前進を続けても本命は結局見つかることはありませんでした。

シロネハナヤスリタケ



コツブサナギハリタケ

同じ形状の子実体で蛾の幼虫から発生するコツブイモムシハリタケという種は比較的多いですが、蛹から発生する本種は稀な種類です。



カイガラムシツブタケ

本種はタニウツギの枝に着生します。独特の形態で、とても美しい種です。タニウツギ自体は庄原市では普通に見かける種ですが、基本的に明るい場所に生育する樹木のため湿った場所を好む冬虫夏草とは対極の関係にあります。そこで、タニウツギがありながらある程度湿り気を保った場所を探して当てその枝を見ていくと、一発で発見することが出来ました。



カイガラムシツブタケ



タニウツギの枝に着生

ホソエノアカクビオレタケ

コケの中に住むと思われるハエらしき幼虫から発生します。コケの朔と見まごうほどの小さな種ですが、よくよく見ると美しい造形をした種です。

ホソエノアカクビオレタケ



コケの中に住む？ハエの幼虫から発生

Gibellula pulchra

小型のクモから発生している無性生殖を行う不完全型の冬虫夏草です。写真のこれは、他の冬虫夏草を採取してクッションとしてたまたまちぎったシダの葉の裏にひょっこりくっついていました。

Gibellula pulchra



イモムシタケ

蛾のトビイロスズメの幼虫に寄生するサナギタケに良く似た大型の冬虫夏草です。これは真面目に仕事に発見しましたが、他の人も一緒にいたため一瞬の間を置いて採取しました。まあ、少し白い目で見られましたが…。

イモムシタケ



トビイロスズメの幼虫に寄生

サナギタケ

お馴染みのサナギタケです。

秋にやや低地のブナ帯まで行かないイヌブナ帯程度の標高域で見つけたサナギタケは、大型のスズメガから発生する大型の個体が多いような気がします。

サナギタケ



秋のイヌブナ帯のサナギタケは大型のスズメガから発生

・冬虫夏草はどこでしょう？ 問1 (レベル2)

恒例のコーナーですが今回もやりました。何の変哲もない一見して詰まらないヒノキの林床の写真に冬虫夏草が写っています。

正解は、サナギタケを小さくしたようなホソエノコベニムシタケが2個体と未熟なアワフキムシタケが1個体です。



・冬虫夏草はどこでしょう？ 問2 (レベル2)

2 問目は単にコケの広がるだけように見える斜面の写真です。

正解は右奥に見えるカメムシタケ1個体と、左側に見えるホソエノアカクビオレタケ1個体です。ホソエノアカクビオレタケはコケと関係が深くコケの間からしか発生しません。



・マラソン途中経過 3

序盤のピンチを乗り越えて、何とか80kmまで辿り着きましたが、そこに最大の障壁が待ち構えていました。通称おろちループ、日本一のループ狂です。はるか前方の上方に見える橋もまだ橋の一部でしかありません。

これまでの激闘で力を使い果たしてしまったのか、登りは走れず…果たして完走できるのか？



80kmを越えてから、日本最大のループ狂

・今年のキノコ

最後は冬虫夏草以外のキノコです。ついでに目に付いた物なので食用キノコばかりになってしまいますが…。

左上はコウタケです。庄原市ではマツタケ以上に珍重されるキノコで、シーズンともなれば山に多くの人が押しかけて来ます。私も今年もまた山を歩いていたらたまに見つけました。

右下はクロカワです。落ち葉の下に隠れるように発生します。今年もとある場所で多く見掛けました。

そして、右上はマ、から始まる皆が良く知って

いるキノコです。



今年のキノコ

マラソンですが勿論完走しました！13 時間 33 分 00 秒の長いようで短い旅でした。さて、来年は旅の途中でどんな新しい冬虫夏草・キノコに出会えるか、今から楽しみです。

御清聴ありがとうございました



完走！

13時間33分00秒



発表される筆者とそのマラソン姿

今回も全ての発表を聞きましたが、やはり一般に向けた内容（たとえば、顕微鏡観察を薦める内容が複数あった）が目を引きしました。個人的にはいつもの内輪のノリも懐かしい気もするのですが…。たとえば、一般向けは別の機会を設けて実施するのもいいのかもしれません。

また、どの発表も熱がこもっており、私と同様に 15 分では時間が足りないようでした。1 年間の思いを詰め込むには少なくとも 20 分くらい持ち時間があれば理想的かもしれません。

いずれにせよ確かなことは、来年のスライド大会も必ず参加するということです。

(2018 年 1 月 11 日受付)

2017年度スライド大会プログラム

名部みち代: これもキノコ、あれもキノコ
斎木達也: きのご旅行2017
出合文子: 1月～4月、これから見られるきのこ
東 勇太: 冬虫夏草マラソン2017
谷口雅仁: 今年見たきのこ(2017総集編)
橋屋誠: 北陸のきのこ2017
下野義人: 2017年にドイツおよびノルウエーで見たきのこ
大久保泰和: 顕微鏡で見たきのこ
波部健: 菌の名は～未知なる菌に挑む
斎木治子: 子実菌ファン
山田留美: きのご散歩道VI
小寺祐三: 2017年に選ばれたきのこ達
森本繁雄: もみの木森林公園の報告及びきのこ展報告
佐久間大輔: きのご展示いくつか

(上記は編集委員より)

2017 年度 活動の記録 No.2

第 574 回例会 甲山森林公園菌類観察会

日時：2017 年 7 月 1 日(土)

27 名参加

場所：兵庫県西宮市甲山森林公園内

天候：くもり 観察種数：65 種

今回も、兵庫県立甲山森林公園との共催行事として実施した。今年は梅雨入りしてからほとんど雨が降らず、前日に久しぶりの降雨があったものの、それまでの乾燥が激しかったせいか、採取できた個体数も種数もたいへん少なかった。この時期に同定テーブルに多くみられるイグチ、テングタケ類、ベニタケ類は数個体のみで、多くが小型の分解菌であった。それでも種数にして 65 種を観察することができた。

クモタケがツツジの生け垣の中に大発生していた。トタテグモが全滅してしまい来年にはクモタケが発生しなくなるのではと思ってしまうぐらい群生していた。(山田裕司)



種が不明となったテングタケ属のきのこ



縁どりのあるイッポンシメジ属のきのこ



大発生していたクモタケ



観察されたきのこの集合写真



集合写真 (撮影 波部健)

第 575 回例会 龍谷の森菌類観察会

日時：2017 年 9 月 10 日(日)

27 名参加

場所：滋賀県大津市龍谷の森・里山ほか
(コナラ中心の雑木林)

天候：晴れ 観察種数： 60 種

多数の参加者の期待に反してきのこの発生量が少なかったが、サザナミイグチなど龍谷ならではのイグチ類からハラタケ類・硬質菌・地下生菌に至るまで、まるで見本展示のように広範囲にわたる分類群のきのこが採集された。大阪市立自然史博物館には 30 種を超える良質なきのこを提供した。(大久保泰和)



観察されたきのこの集合写真



集合写真 (撮影 大久保泰和)



サザナミイグチ *Boletus subcinnamomeus*

第 576 回例会 宿泊菌類観察会

日時：2017 年 10 月 7 日(土)～9 日(月祝)

36 名参加

場所：広島県 もみのき森林公園 (モミ・ブナ・ミズナラ・コナラ・アカマツなど多様な林)

天候：くもりのち晴れ 観察種数 169 種

ホテルの豪華な食事は大満足。採集種数は 169 種を数え、同定会では多くのメンバーから貴重なコメントを頂いた。広島県の井本さんに顕微鏡を持参して頂いたので、アセタケ属などの同定がスムーズにできた。往復のバスも楽しかった。(森本繁雄)



集合写真 (撮影 丸山健一郎)



シャカシメジを見つけて大喜び



観察されたきのこの集合写真（撮影 丸山健一郎）

第 577 回例会 吉田山菌類観察会

日時：2017 年 10 月 28 日(土)

11 名参加

場所：京都市 吉田山（雑木林）

天候：雨 観察種数 約 70 種

あいにくの雨模様で参加者が 11 名止まりであったが、初参加の学生諸君 3 名の健闘もあって、70 種類を超える上質の標本を採集し展示に供することができた。

(大久保泰和)



同定会の様子

第 579 回例会 近大農学部菌類観察会

日時：2017 年 11 月 5 日(日)

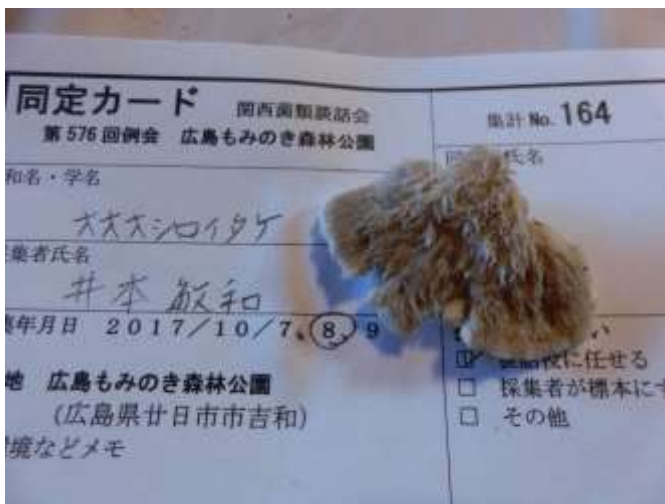
32 名参加

場所：奈良県奈良市 近畿大学農学部構内里山

天候：晴れ 観察種数 89 種

参加者のうち 10 名は近畿大学の学生諸君。乾燥気味の天候が続き、きのこの発生状況が案じられたが、近畿大学のキャンパス内および後背の矢田丘陵から、秋のきのこや子囊菌を中心として多くのきのこが採集された。

(大久保泰和)



オオオシロイタケ *Postia tephroleuca*



集合の様子



同定会場の様子 (撮影 丸山健一郎)



集合写真 (撮影 小堀栄二)



オニフスベを半分に切ったところ



観察されたきのこの集合写真 (撮影 丸山健一郎)

もみのき森林公園菌類観察会での標本写真 (撮影 谷口雅仁)



シロナメツムタケ *Pholiota lenta*



チャナメツムタケ *Pholiota lubrica*



ヌメリスギタケ *Pholiota adiposa*



ブナシメジ *Hypsizygus marmoreus*



ヒメサクラシメジ *Hygrophorus capreolarius*



サクラシメジモドキ *Hygrophorus purpurascens*



ホテイシメジ *Ampulloclitocybe clavipes*



ムラサキズボタケ *Cortinarius pseudosalor*



クリフウセンタケ *Cortinarius tenuipes*



カワムラアブラシメジ
Cortinarius elatior var. *albipes*



シワカラカサタケ *Cystoderma amianthinum*



ワカサタケ *Gliophorus psittacinus*

採集リストはホームページ (URL) で公開します。

会報記事投稿のご案内

～皆様の投稿をお待ちしております～

- ◇原則として、投稿資格は本会会員に限ります（編集委員会から依頼する場合は例外とします）。
- ◇キノコやカビに関する記事、図、写真やイラスト、本誌に関するご意見などをお寄せください。
- ◇原稿の量は問いませんが、1600～2000 字を目処にまとめていただくと幸いです。もちろん、これより多くても少なくてもかまいません。
- ◇写真や図やイラストは、文中でも構いませんし、まとめて送付いただいても構いません。
- ◇原稿は下記の送付先にお送りください。別紙に著者名、連絡先（住所・電話番号・FAX 番号・電子メールアドレス）を書いて添付ください。ワードかテキスト形式のファイルで保存された媒体のものを添付いただくようお願いいたします。また、電子メールを利用できる場合は、電子メールでの投稿も歓迎いたします。

◇原稿の採否、掲載の順序、レイアウト等は、編集委員会の決定にお委せください。

◇編集委員会は、著者の原稿中の字句、表、図、写真などのスタイルの統一や変更を求めることがあります。文章の用法上、あるいは、文法上の誤り、その他の修正は編集委員会にお委せください。修正後の原稿は著者にお送りして、再度確認していただくようにいたします。

◇原稿には表題、著者名、本文のほかに必要な場合は引用文献（あるいは参考文献）をあげてください。

◇郵送された図、写真に限り、発行後にお返しします。

◇発行して 2 年後には、会の Web に一般公開されます。

＜原稿送付先＞

関西菌類談話会 会報編集委員会

齋木達也

〒573-0162 大阪府枚方市長尾西町 1-5-23

TEL : 072-868-5481

E-mail : mamedebiribo@yahoo.co.jp

編集委員：天野典英、橋本貴美子、丸山健一郎、
正井俊郎、森本繁雄、○齋木達也

（abc 順・○印は編集委員長）

表紙解説

Acervus epispartius（和名なし）は、2017 年 9 月 10 日の第 575 回例会・龍谷の森菌類観察会で、出合文子さんが見つけました。インパクトのある黄色、ふたのような小さな突起が付いているのが（残っているのが少ないですが）特徴のチャワン型の子嚢菌です。

編集後記

今回の会報は、いろいろな例会に参加された方から、様子や感想、発表内容などを原稿にまとめていただきました。例会に参加できなかった方に臨場感を少しでも味わっていただけると嬉しいです。「私も投稿してみようかなあ」と思われたあなた、原稿お待ちしておりますね。（齋木達也）

関西菌類談話会会報 No. 36

平成 30 年 2 月 8 日印刷

平成 30 年 2 月 18 日発行

編 集 関西菌類談話会会報編集委員会

発 行 関西菌類談話会

発 行 所 関西菌類談話会

ホームページ <http://kmc-jp.net/>

事務局 〒616-8182 京都市右京区太秦北路町 3-3 309 号

北 岸 阿 佐 子 方

郵便振替口座 00950-0-83129

印刷 印刷通販プリントパックにて

<http://www.printpac.co.jp/>